



◆水舟の里「須原宿」

中山道三十九番目の宿場「須原宿」は、木曾谷の中では一番古くに栄えた歴史ある宿場町です。宿場の創設は古く戦国時代の頃ともいわれています。宿駅として指定されたのは慶長六年（一六〇二）で、当初は木曾川沿いに町割りされましたが、正徳五年（一七一五）の大洪水により大きな被害を受け、享保二年（一七二七）現在の位置に移築されました。



須原宿町並み

須原宿は古くから湧水が豊富で、宿場の中央沿いにはサワラの丸太をくり抜いた「水舟」が所々に置かれ、住民の日々の生活を支え旅人の喉を潤していました。この水舟は上水道の普及によりなくなりましたが、昭和六十年に地域住民により再現・保存され、独特の町並み景観を作り出しています。



宿場に置かれている「水舟」

◆須原宿の町並み

須原駅を出てすぐに正面に、幸田露伴の小説「風流伝」に描かれている「桜の花漬け」を江戸時代末より製作・販売している「大和屋」があります。ここから南に進み宿場の中ほどには島崎藤村の「ある女の生涯」の舞台となった「清水医院跡地」（建物は犬山市「明治村」に移築）や正岡子規の歌碑、江戸時代には

脇本陣を務める傍ら酒造業を営み中山道の歴史と共に歩んだ、現存する木曾谷最古の酒蔵「西尾酒造」があります。旧須原小学校門を過ぎると、今も飲用することのできる屋根付きの「水舟」があります。ここから宿場はずれまでは、江戸時代の旅籠の様式が色濃く残っています。この地区では、毎年七月十七〜十八日に「鹿島神社例祭」が開催され、御神輿や長持ち行列、須原宿に古くから伝わる盆踊りの「須原ばねぞ」が地元の方たちにより演じられます。



須原長持行列



桜の花漬

◆木曾三大寺、最古刹「定勝寺」

宿場町の最も南に位置する「定勝寺」は、木曾三大寺の最古刹であり、本堂、庫裏、山門の三建築が桃山風の豪壮な建築様式として昭和二十七年に国の重要文化財に指定されています。

定勝寺には寺宝が多く、木曾義元肖像



定勝寺山門

画や香林和尚頂相などが長野県宝に指定されており、書院の千羽鶴の壁画や東洋一の本曾ヒノキダルマ座像も見応えがあります。また、平成四年にこの寺で発見された「番匠作事日記」には天正二年（一五七四）には仏殿を修理した際にそば切りを振る舞ったことが記載されており、これが日本最古のそば切りに関する記録といわれています。

アクセス方法

・公共交通機関 JR中央本線須原駅下車

・自家用車 中央自動車道中津川IC 国道十九号線経由で約一時間

お問い合わせ

大桑村観光協会 TEL〇二六四―五五一 四五六六